

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年版) 省エネルギー建築物環境性能評価マニュアル(2016) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東山公園テニセンターコート改築その他工事	階数	地上4F
建設地	名古屋市天白区天白町大字八事字裏山60-19外7番	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年6月 予定	評価の実施日	2024年2月6日
敷地面積	36,472 m ²	作成者	
建築面積	4,315 m ²	確認日	2024年2月6日
延床面積	7,217 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境負荷 L (0 to 100) vs 環境品質 G (0 to 100)	 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです	 Q2 サービス性能 5 Q3 室外環境(敷地内) 4 LR3 敷地外環境 3 LR2 資源・マテリアル 3 LR1 エネルギー 3 Q1 室内環境 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 3.5		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.4 	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.6 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.5
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 ・客席規模3500人収容のセンターコートと、500人収容のショーコートを一体の建築物として計画した観覧場施設。 既存地形の高低差を活かし、土工事や地業工事の規模を最小限としている。観客席下に必要諸室を配置する計画であるが、空間構成の工夫により極力自然光を取り入れている。観客席等の屋外利用する場所は特に耐久性に配慮し、内部に対しては高気密・高断熱仕様により快適に利用できる空間づくりを行った。		
Q1 室内環境 ・RC造の床・界壁により遮音性能を確保 ・壁・屋根・軒天上部床は十分な厚さの断熱材を見込む ・トップライトにより自然光を導入 ・使用する内装材料はF☆☆☆☆、必要換気性能を確保	Q2 サービス性能 ・報道室等の通信環境が求められる室にOAフロアを採用 ・バリアフリー環境については、「名古屋市長都市場環境整備指針」等に基づき計画 ・床・腰壁・天井に天然木材を使用した仕上材を使用	Q3 室外環境(敷地内) ・既存緑地は極力残置、特に施設南側の植栽地は既存状況を活かしたランドスケープとして計画 ・敷地全体で名古屋市で定める緑化率を満たしている ・外壁は名古屋市長都市場環境整備指針で定める色相範囲とした
LR1 エネルギー ・外皮には十分な断熱性能を確保 ・トップライトにより自然光を導入	LR2 資源・マテリアル ・コンクリート・鉄骨等、高強度材料を使用し、断面サイズを抑制している。	LR3 敷地外環境 ・雨水流出抑制は、敷地内の既存雨水貯留槽を利用を行う。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

東山公園テニスセンターセンターコート改築その他工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.012	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.06	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。